

吹く風に少しずつ春の気配を感じるころとなりました。

私たち卒業生一同は、今日この日をもちまして、神奈川大学を卒業します。

この学生生活の締めくくりとなる良き日に、私たちのために素晴らしい卒業式を挙行してください、心より感謝申し上げます。

また、本日ご多用の中ご臨席くださいました先生方をはじめ、ご来賓、ご父母の皆様、卒業生一同を代表し厚く御礼申し上げます。

4年前の春、私は大学生活への期待と不安を胸に、この神奈川大学に入学しました。新型コロナウイルスの影響もあり、卒業式が中止になった年もありましたが、本日、入学式を行ったこの場所で同じように卒業式を迎えることができたことを心よりうれしく思います。

振り返ると、大学での4年間は瞬く間に過ぎてしまいました。入学当初は、時間割の作成や演習形式の授業など慣れないことが多く大変でしたが、徐々に交友関係も広がり、余裕が出るようになりました。

ようやく大学生活に慣れてきたころ、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言で大学に通うことができなくなり、全面オンラインでの授業が開始されました。友人にも会えず、先生にも直接質問することができない環境は少し孤独を感じる部分もありましたが、先生方による授業の工夫や、大学関係者の皆様による手厚いサポートもあって、対面授業と変わらないほど、安心して講義を受けることができました。

3年次になったころ、みなとみらいキャンパスが完成、また一部で対面授業も再開し、1年生に戻ったような、そんな新鮮な気持ちで新しいキャンパス生活が始まりました。そして、ゼミナールが始まった年でもあり、より専門的に学修を進めると同時に卒業論文についても考えていく必要がありました。

また、本来2年次に1年間中国の留学を考えていたのですが、新型コロナウイルスの影響でそれが叶わず、代わりに3年の夏、短期オンライン留学という形で台湾の大学の授業を受けました。3週間と短い期間ではありましたが、この経験により大きく成長することができたと感じています。

そして学生生活最後の年に取り組んだ卒業論文では、困難もありましたが、ゼミナールの指導教員である彭先生をはじめとする、たくさんの方に協力していただいたおかげで、卒業論文を書きあげることができました。

この4年間、本当にたくさんの方々を支えられ、貴重な経験を積むことができました。

4月からはそれぞれ自分で決めた道に各々が進みます。これまでにない大きな困難に直面することもあると思いますが、自分たちは一人ではなく支えられて生きているということをお忘れはいけません。私は、これまで支えられてきた分以上に、誰かを支えられる存在になりたいと思います。そして、神奈川大学で得た経験や学びを活かし、さまざまな形で社会に貢献できるよう、日々邁進してまいります。

最後になりますが、この4年間でお世話になった多くの方々、特に卒業研究で1年間指

導していただいた彭先生や研究に協力していただいた皆様に感謝の気持ちを伝えたいと思います。また、4年間精神的にも経済的にも支えてくれ、大学に通わせてくれた両親に深く感謝しています。私と同じく、この会場にいる卒業生には感謝の気持ちを伝えたい方々が多くいらっしゃると思います。卒業生を代表してこの場をお借りし、心よりお礼を申し上げます。皆様、4年間私たちを温かく見守ってくださり、また支えてくださり本当にありがとうございました。

以上、お別れとお礼の言葉とさせていただきます。

2023年3月22日

卒業生代表

外国語学部 中国語学科 川野佑華